



家庭菜園

Beginner's

夏野菜を計画しよう編



家庭菜園Beginner's

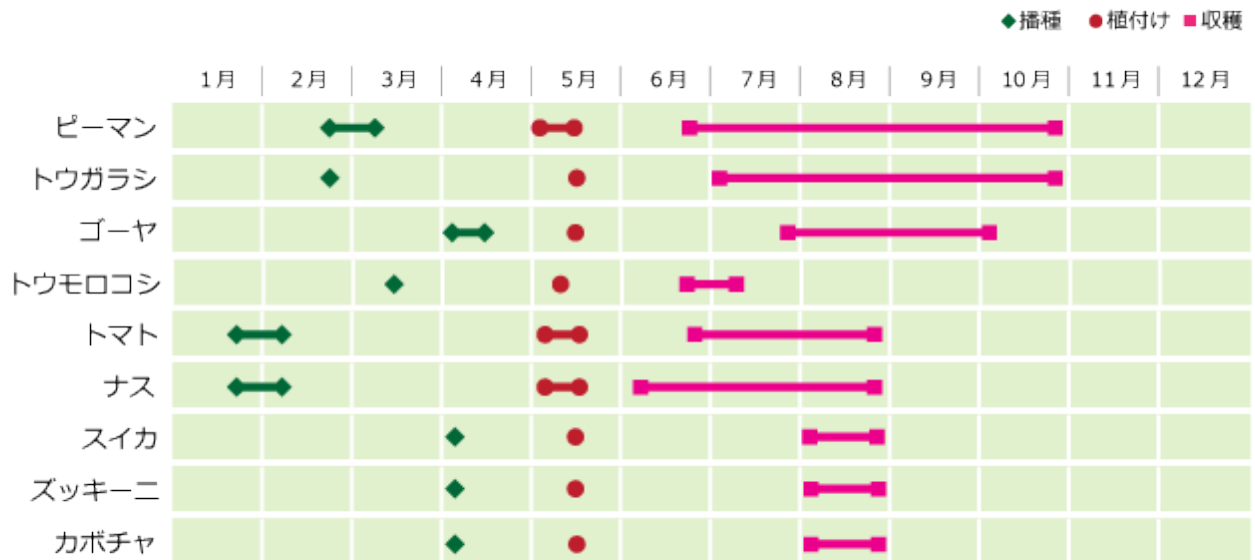
夏野菜を計画しよう



まだまだ寒い日が続きますが、そろそろ夏野菜の準備に取り掛かる時期が近づいてきました。夏野菜でも1～2月にもう播種（育苗）するものもあります。

この夏に何を植えたいかを考えて、年間計画表も使っていただいて、今から夏野菜の計画をたててみましょう。

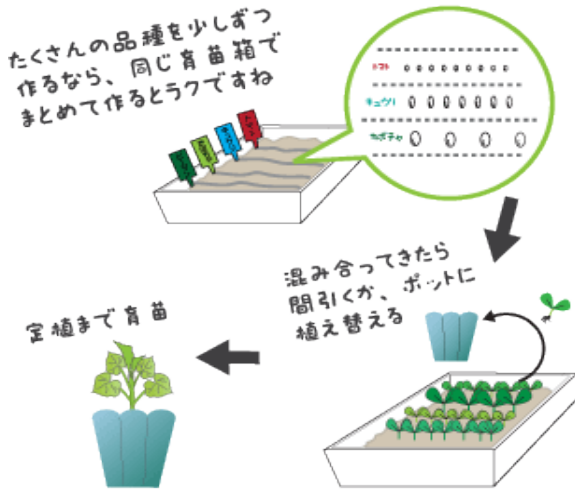
栽培カレンダー（例）



植付けのタイミングを合わせると作業も計画的にできます

※栽培暦は品種により異なりますので、必ず栽培暦を確認ください

【種蒔きと定植時期】



■ピーマン

育苗箱に蒔いてトンネルをする。種蒔き後 55 日（本葉 5～6 枚）でポリ鉢に植え替える。

種蒔き後約 80 日（本葉 12 枚くらい）で定植。定植後は敷きワラで乾燥を防いでやる。

■ゴーヤ

高温乾燥には強いが低温に弱いので、温度を 25℃くらいに保てる場所で育苗する。砂床に深さ 5～6cm に伏せ込ませるとよい。4～5 日で発芽。定植はアジサイの花が咲き始める頃がよい。

■トウモロコシ

移植の場合は、1 鉢に 3 粒程度蒔いて、本葉 2 枚（種蒔き後 25 日くらい）で定植。

直播の場合は 1 穴に 3 粒程度蒔いて、白ポリマルチをかけ、本葉 2 枚の頃にポリマルチに穴をあけて茎葉を出してやる。

■トマト

育苗箱に蒔いてトンネルをする。本葉が出始めた頃に鉢に植え替え、本葉 8～9 枚ごろ（花が 1～2 咲く頃）まで鉢で育苗する。小苗を早くから移植すると肥料や水を吸い過ぎて、草ぼけや実どまりになるので注意。

■ナス

高温を好むので、発芽には昼 28℃程度の温度を保てる場所で育苗する。育苗箱に蒔いてトンネル、本葉 1 枚のときにポリ鉢に植え替え、1 番花が咲き始める頃に定植。

■スイカ

ポリポットに 1 粒ずつ蒔き、マルチを敷いた育苗箱に並べる。この上にトンネルをかけ、本葉 4 枚（種蒔き後 35 日）頃に定植。直播の場合は、桃の花が咲く頃に種を蒔き、ビニールキャップをかける。

■ズッキーニ

3 号鉢に 3 粒蒔き、本葉が出たら間引きして 1 本立てにする。直播は夜温が 7～8℃以上あれば生育するが、気温が低いならホットキャップをかぶせてやる。（ウリバエ、アブラムシ回避にも効果的）

■カボチャ

ズッキーニと同じく、夜温が 7～8℃以上あれば生育する。ポットや鉢に 1 粒ずつ蒔いて、本葉 4～5 枚の頃に定植する。定植後の保温や害虫回避にホットキャップをかぶせてもよい。

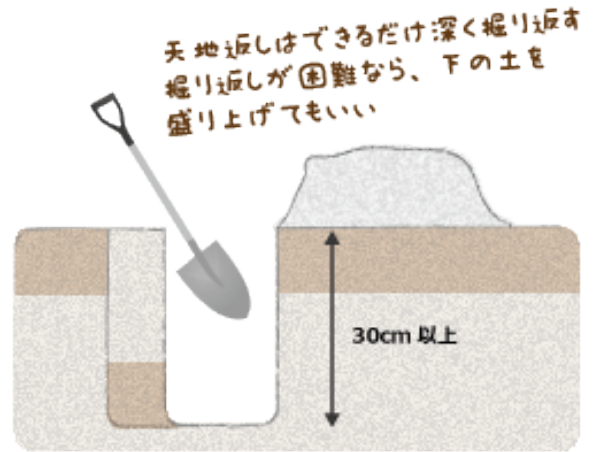
【冬の間、土の手入れ】

冬の間、次の作付けを待っている場所は、今のうちに手入れをしましょう。

人間もそうであるように、野菜も酸素と水は必要不可欠です。土の中に適度な空気と水分を保てるように、土を団粒構造にしてやりませす。年に1回は30cmくらい深く耕して、石灰と有機質素材（稲ワラ、腐葉土、牛フンなど）を施すのが理想です。連作障害でできの悪くなった畑はさらに深く掘り返して天地返しをしてやりませす。

深く耕したら、畑の表面は平らにはせず小山の状態にして、しばらく土を寒気にさらして風化させませす。風化は、排水、酸素補給、病虫害対策に有効です。

この作業は、土が湿っていない状態の時に行いませす。土が多湿の状態では耕すと、土がこねられて硬くなり排水不良になります。逆に砂埃が立つような乾きすぎの時は、土が細かくなり過ぎてパラパラの状態となり団粒構造がこわれ、しばらくするとかたい土になるので、作業は土の状態（適度にしっとりしていて、バラける）を見て行いませす。



【ミニ耕うん機を上手に使おう】

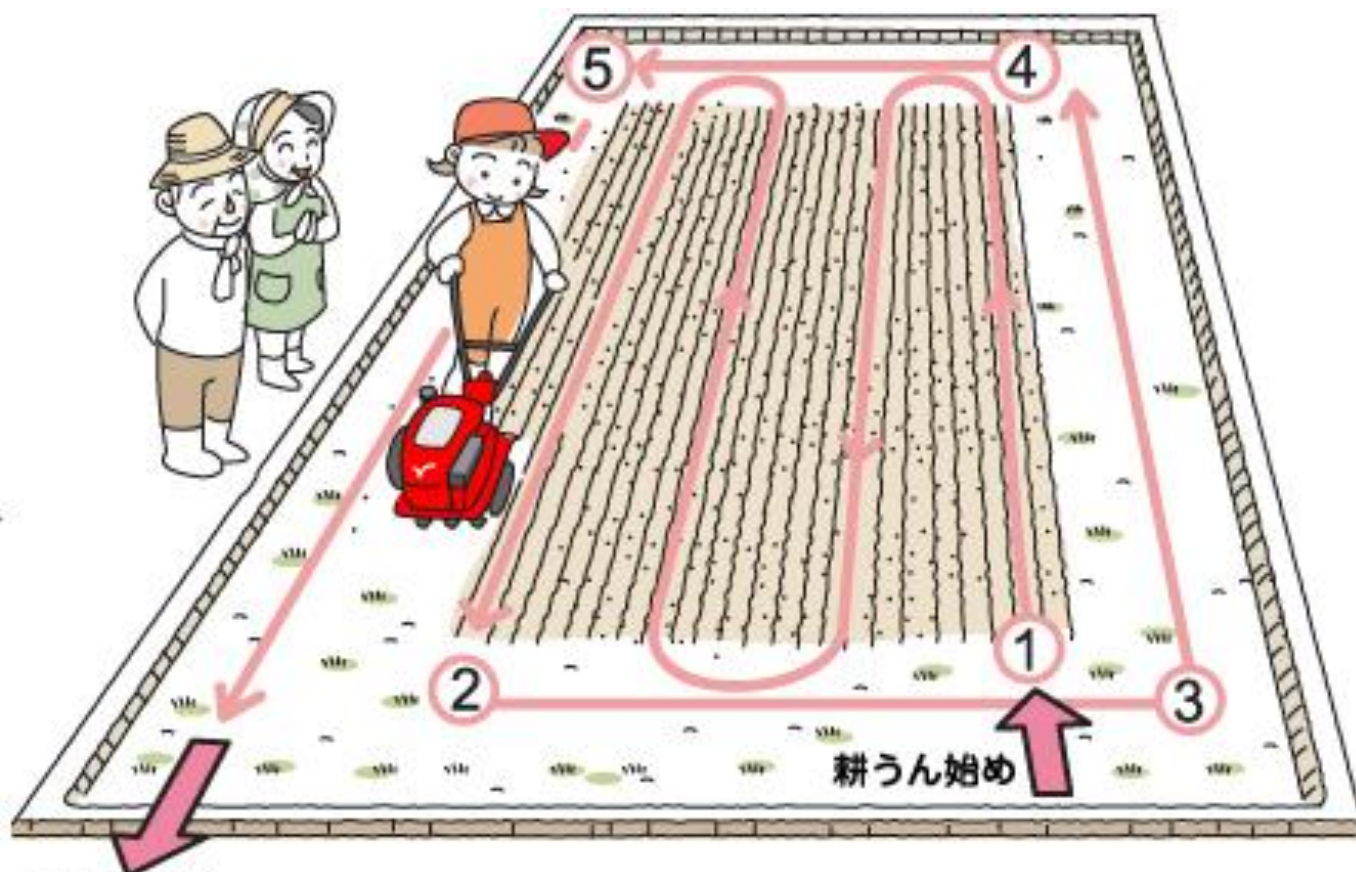
畑作業の助っ人、ミニ耕うん機（管理機）は、耕うん、うね立て、ならし、除草などの重労働を飛躍的に軽減してくれるので、多くの家庭菜園で活躍しています。

足の巻き込み防止や、ロータリーの反動の少ないものなど、機械類はちょっとニガテという方にも、より安全で気軽に使えるものがたくさんあります。

ラインナップも多く、小型サイズや充電式のものから、機能が充実した大型のものまでさまざまです。

ここでは、一般的なミニ耕うん機での、簡単な耕うん作業をご紹介します。

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、野菜の根が張りやすい環境を作る大切な作業です。



耕うん終了

耕うんは、畑（うね）の隅から作業をスタートします。視線を進行方向の少し遠方に移して、まっすぐ耕うんします。

耕うん機をまっすぐ進め畑の端まできたら、アクセルレバーでエンジン回転を下げます。ハンドルを持ち上げ、抵抗棒を地面より上げて、ハンドルを振って本機をリターンさせます。

爪が先ほど耕うんしてきた部分に隣接する位置に旋回し、エンジン回転を上げて作業を続けます。同じ要領で畑の端から順番に耕うんしていきます。

※危険を感じたら、主クラッチレバーから手を離してください！

土が硬い場合、最初に表面を軽く耕し、2回・3回と分けて耕うんします。

無理せず何度も繰り返し作業を行う方が楽に、希望の耕うん深さにする事が出来、土も細かく出来ます